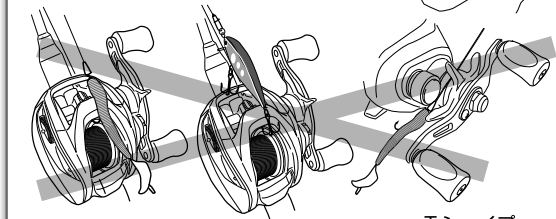


●取扱い上の注意！

- ・PEライン専用設計スプールです。PE以外のラインは使用しないでください。ラインの伸縮によるスプール変形などのリスクがあります。
- ・500g以上の強いテンションでラインを巻かないでください。スプール変形の原因となります。
- ・細糸PEラインを使用する場合、トラブルが発生しやすくなります。フレームとスプールの間(隙間)にラインが噛み込む症状や、巻糸面での上糸と下糸のライン同士での食い込み症状などが発生しやすくなります。ラインの噛み込みや食い込みは必ず直してから次のキャスト動作へ移ってください。マグダイヤルを強めに設定するか、ラインを巻き過ぎないようにするなどあらかじめご注意ください。

- ・ラインガイドを手で無理に動かさないでください。破損のおそれがあります。
- ・ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはおやめください。リールを傷つけたり、糸が傷ついたり、ワームの成分によってはリールの塗装がはがれたりすることがあります。



- ・Tシェイプレベルwindの狭い部分から糸が外れると、スプールにラインをきれいに巻くことができません。
※スプールに糸を巻く時、バックラッシュをほどこす時は、必ず糸が狭い部分を通して行うてください。

- ・リーダー結束部がレベルwindを通していきい場合があります。結束部はロッドのガイドより外側に出すことをお勧めします。

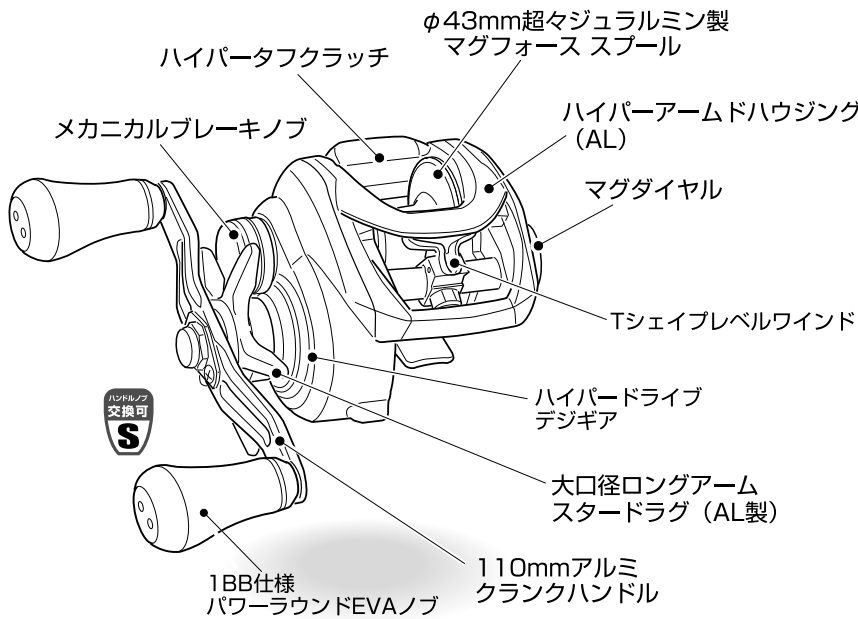
- ・Tシェイプレベルwindの狭い部分にリーダー結束部が挟まった場合は、指で外してください。
※そのままクラッチを切ると、破損のおそれがあります。
- ・超薄肉スプールのため、落下などの衝撃で変形してしまうと、スプール性能が発揮されなくなります。お取り扱いには十分ご注意ください。

- ・糸を巻く際は、リール本体に糸が触れないようにご注意ください。フロントカバーやフレームに糸が当たると、糸やリール本体が傷つくおそれがあります。
- ・最大ドラッグ力の範囲内での使用をおすすめします。過度なドラッグを掛けた状態での使用は、このリールの適正使用条件を強度的に大きく超えますのでおやめください。
- ・輸送時に強い負荷がかかると、ハンドル等の部品が変形するおそれがあります。梱包状態や取り扱いには十分ご注意ください。

- ・保管の際は必ず竿から取り外してください。
- ・リールを長期間(数ヶ月以上)ご使用にならない時は、リール作動部を時々動かすことをおすすめいたします。
- ・ドラッグ付リールは、釣行後にドラッグを緩めて保管してください。ドラッグをきつく締めたまま保管すると、ドラッグワッシャーが潰れ、性能が低下します。
- ・通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- ・海水で道糸が濡った状態のまま保管するとスプールが腐食するおそれがあります。巻糸部にあたるように水道水を掛けて海水を十分流してから乾燥させてください。
- ・水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールの破損するおそれがあります。
- ・発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。
- ・リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。
- ・海水の中に長時間放置しないでください。
- ・釣り餌が付着した状態で長時間放置をしないでください。
- ・根掛かりした時に、スプールを指で押さえた状態で糸を切ることはおやめください。スプール変形の原因になります。

●各部の名称と操作方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

この度は SALTIST TW 400XH/400XHL PE SPECIAL ベイトキャスティングリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、PEラインの使用を前提に、ベイトキャスティングゲームを快適に楽しんでいただくことを目的に開発されました。ギアが強く滑らかな回転が持続する設計思想「HYPERDRIVE DESIGN」、TWS、PE専用スプールを採用しており、快適なルアーフィッシングを楽しんでいただけます。このリールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。

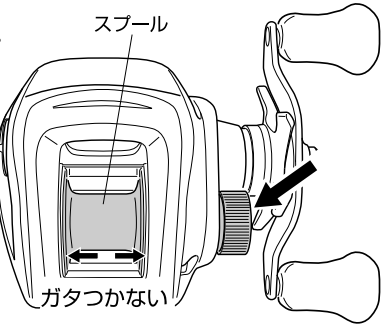


●ブレーキ設定方法

- ・マグダイヤルの調整で従来よりかなり強いブレーキ力を発揮するようになっており、大半のルアーはマグダイヤルで制御する事が可能です。メカニカルブレーキを掛けるとスプールレスポンスを損ね、性能を発揮できなくなります。以下が基本的な設定方法です。

●メカニカルブレーキ設定を“ゼロ”にする。

メカニカルブレーキノブを緩めた状態から締め込んでいく中で、ガタついていたスプールがガタつかなくなる所があります。そのピンポイントがメカニカルブレーキ“ゼロ”の状態です。



●ゼロ設定からわずかに緩め、微小なガタつき(0.2mm程度)を感じるところで、ご使用ください。

【注意】

※ ミクロン単位の精度を追求したスプールを採用しているため“ゼロ”状態より大きく緩み過ぎた設定だと、キャスト時のスプールの振れが大きくなる為にリール本来のブレーキ性能が損なわれ、却ってバックラッシュや飛距離ダウンの原因となります。また、ノブが外れてパーツを紛失するおそれもあります。メカニカルブレーキノブは『緩めるほど飛ぶ』ということではなく、“ゼロ”設定プラスαの程度がベストです。緩め過ぎは逆効果です。

- ①マグダイヤル目盛りを最大にする。
 - ②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げていきます。バックラッシュ気味になるひとつ手前の目盛りが、その時の条件に合った最適なセッティングです。
- ※もちろん、サミングを併用する事で、更にブレーキを落とす事が可能です。
※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じたところで初めてメカニカルブレーキを締めて使う事をお勧めします。

【注意】

※メカニカルブレーキを締め込みすぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が起こるケースがあります。締め込み過ぎないように、ご注意ください。



HYPERDRIVE DESIGN

SALTIST TW 400XH/400XHL PE SPECIAL

取扱説明書

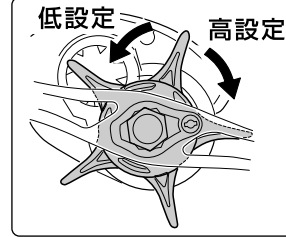
●安全上の注意

- ①糸をリードするレベルwindの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をするおそれがあります。
- ②糸が勢よく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切るおそれがあります。
- ③糸が勢よく出ている時は、スプールの上に指を置かないようにご注意ください。火傷や、指を指で刺すおそれがあります。
- ④キャストの時はクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をするおそれがあります。
- ⑤ハンドルとボディの隙間に指・衣服等が挟まると大変危険です。怪我をするおそれがありますので、取扱いには十分注意してください。
- ⑥超薄肉スプールの為、スプールエッジ部が鋭利になっており、特に濡れた手で触れると怪我をするおそれがあります。指などを切らないよう十分注意してください。
- ⑦リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタつきがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我をするおそれがあります。
- ⑧乳幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながるおそれがあります。

●安全上・ご使用上の注意

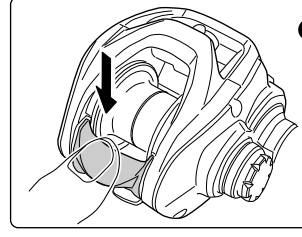
- ①本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
- ②本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損するおそれがあります。
- ③根掛かりした時は、無理に竿をあおらず糸を棒状の物に巻き付け、引っ張って切るようにしてください。竿をあおると、竿折れの原因になります。
- ④落下等の強い衝撃がかかると、破損する場合があります。また、竿に装着した状態で落下等、竿先に衝撃がかかった場合にも、リールの脚部が破損するおそれがありますので十分ご注意ください。
- ⑤リールのワンウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をするおそれがあります。
- ⑥ドラッグ付きリールで遠投する際には、ドラッグが滑ると糸で指を傷つけるおそれがあります。必ずドラッグをよく締め付けてから投げするようにしてください。
- ⑦ドラッグを長時間連続使用すると、ドラッグ収納部が熱くなり火傷をするおそれがあります。
- ⑧クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。ラインがロックした状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。
- ⑨リールの回転部にはグリスや油が付いているので、服を汚さないようにご注意ください。
- ⑩使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻糸量、巻糸状態に差異が生じることがあります。
- ⑪塗装やワックスなどの表面層あるいは素材の表面が剥がれた場合は、その部分に触れないでください。怪我をするおそれがあります。
- ⑫シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、ご使用にならないでください。また、上記が手に付いたまま本機を扱うこともおやめください。本機の表面が変質したり塗装が剥がれたりするおそれがあります。
- ⑬弊社純正品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正品以外の部品が取り付けられたままでの修理の場合は断りさせていただきます。あらかじめご了承ください。
- ⑭製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●ドラッグ調整方法 (※図は右ハンドルモデルです。)



●右ハンドルモデルの場合、時計回りに回せばドラッグ設定は高くなり、逆時計回りに回せばドラッグ設定は低くなります。(左ハンドルモデルは逆になります) 使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。

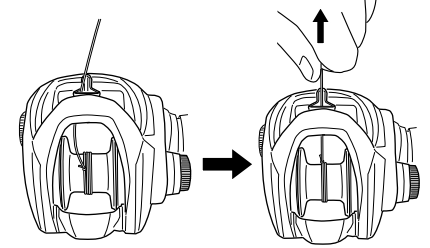
●ハイパータフクラッチ



●親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。親指でクラッチとスプールを同時に押さえることができるので、すばやくキャストできます。

●スプールにPEラインを巻き始める時の結び方

●PEライン使用に際しては、糸がスプールから空転するのを防止するため、3回から5回程、糸をスプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。また、結び付けた後、強く引っ張っても糸がスプールから空転しないことを確認した後、糸巻きを開始してください。



●PEラインキャストのコツ

はじめに…本リールは、PEラインを、よりトラブルレスにキャストすることができるように開発されておりますが、**PEラインの特性上、全くトラブルがなくなる訳ではありません。**使いこなされるには、『慣れ』という部分が不可欠です。あらかじめご了承ください。

- ①最初からフルキャストをせずに、徐々に距離を伸ばして行くように心掛ける。
・その日の釣り始めの状態では、スプールに巻かれたPEライン同士がくっついていたり、下のラインに上のラインが食い込んでいたりする場合があります。
・その状態でいきなりフルキャストすると、ライン放出の妨げになり、最悪の場合はラインが高切れして、ルアーをロストすることもあります。
・ラインが食い込んだり、くっついたりした状態をほくし、スプールによくラインが馴染んだ状態になったら、徐々にキャスト時の入力を強くしていただく事をお勧めします。
- ②ロッドの弾力を利用して、“乗せる”キャストを心掛ける。
・“コンパクトなスイングでピュッと振り切る”ようなキャストはトラブルの元です。スイングの初速～中盤～終盤までのスピード差を極力少なくする意識でキャストしてください。
- ③ジャークや、シャクリ等で、ラインがフケ気味に巻かれる場合は、テンションを掛け直す。
・糸フケが多く出ている状態で使い続けると、上のラインが下のラインに食い込みやすくなります。ラインが良い込むと、次のキャスト時のトラブルに繋がります。
- ④キャストの中で、メカニカルブレーキを緩めすぎない。
・緩めすぎると、トラブルが増えます。緩め過ぎは逆効果です。
※メカニカルブレーキの設定については、「ブレーキ設定方法」の欄を参照ください。
- ⑤リーダーとの結節部が、ロッドのガイドから外側に出るようにする。
・リーダーが長いと、キャスト時に結節部がガイドに絡み、高切れの原因となります。
・リーダーを長く取らざるを得ない場合は、ノット部を極力小さくすることをお勧めします。

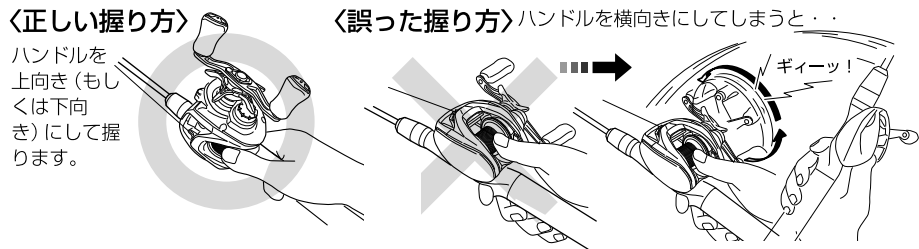
Q. 向かい風の時には？

A. マグダイヤル目盛りを大きくして、余分なラインが出ないようにすることで、トラブルを減らすことができます。それでも、バックラッシュをしてしまう時に、はじめてメカニカルブレーキを締めていきます。

Q. ナイロンやフロロカーボンラインは使えないの？

A. 本誌品はPEライン専用のブレーキ設定のため、PEライン以外を使用するとトラブルが発生する可能性があります。ご使用はおやめください。

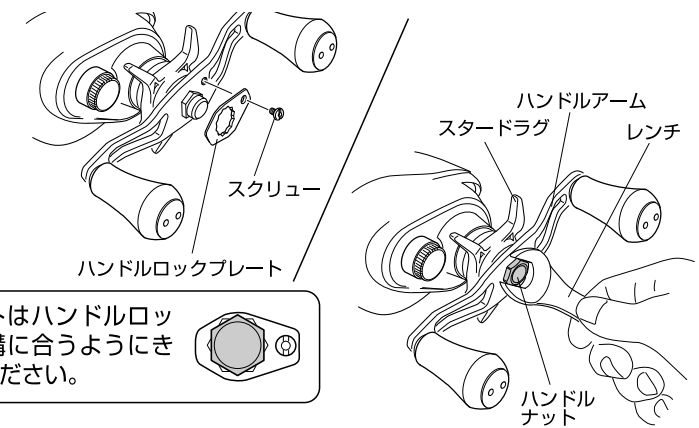
●キャスト時の注意 (※図は右ハンドルモデルです。)



※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車であれば、クラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギアの破損のおそれもあります。絶対にお避けください。
 ※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないで、ギアやボールベアリング等の破損につながるおそれがあります。
 ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い(大きい)ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

●ハンドル交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)(※ハンドルナットは左ハンドルの場合、逆ネジとなっておりますので特にご確認ください。)

- 市販のドライバー(※)でスクリューを緩め(反時計回り)、ハンドルロックプレートを外します。
- スタードラッグを締め込み、市販のレンチ(※)を使い、反時計回りでハンドルナットを外します。(左ハンドルは時計回り)
 (※)ダイワRCSベイトキャストリール純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。
- ハンドルを外し、交換してください。
- レンチを使い、ハンドルナットを取付けます。強めに時計回りに締めてください。(左ハンドルは反時計回り)
- ハンドルロックプレートを取付け、ドライバーでスクリューを締めて(時計回り)ください。



●ハンドルノブ取付方法 ※Sサイズノブと互換性があります。

- 工具を使用し、キャップを外します。
 ⚠️キャップは逆ネジになっております。ご注意ください。
- 図のように、組み込んでください。スクリューはプラスチックドライバーを使ってしっかりと締め込みます。スクリュー側のカラー(ボールベアリング)がノブに納まるよう、しっかり入れてください。

- キャップ部を工具で取り付け完成です。
 ⚠️キャップは逆ネジになっております。ご注意ください。
 ※図中の工具は別売です。釣具店にご用命ください。
 (部品コード：199585)
 (部品名：ドライバー/ミリオネアCVハンドル用)
 ※RCSベイトキャストリール純正オプションハンドルノブ(Sサイズ)には、図中の工具が入っております。
 ※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。(追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。)

●スプールの交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

- サイドプレート上のマグダイヤルの中心にあるスクリューを反時計回りに回し、ゆるめます。(スクリューは脱落防止のため、完全にはぬけないようになっています。)

- 図のようにサイドプレートを下方方向に回転させ外してください。

『パーツ情報 確認方法』

パーツ情報については【ダイワパーツ検索システム】よりご確認ください

QRコードまたは検索

ダイワパーツ検索システム 検索

●アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万が一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品注文の際はお問い合わせの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料) 携帯電話からもご利用できます

TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00~17:00 (土・日・祝祭日は除く)

ホームページ上からも確認、お問い合わせできます

www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16

●重要！お手入れ方法

- 本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
- 錆や塩分によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
- 本製品を末永くお使いいただくためにも、年に1度は(株)スポーツライフプラネットへオーバーホールに出すことをお勧めします。(有料)

- 推奨オイル：ダイワ純正リールガードオイル REV ボールベアリング用オイル
 - 推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
- ※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なうおそれがありますので、絶対におやめください。

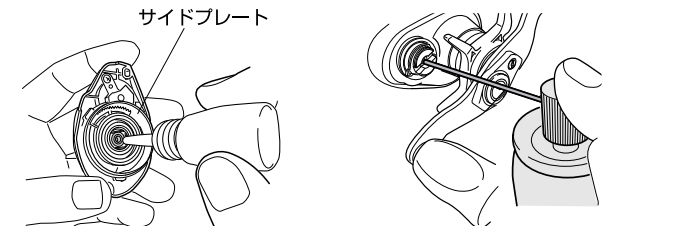
- ＜順序＞
- ①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。
 ※特に海水域で使用したまま乾燥すると潮が結晶化してしまい、水洗い効果が低下します。また、結晶化した塩分がスプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
 - ②ドラッグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3部分に分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各部分を水洗いしてください。
 - ③サイドプレート、スプール、本体いずれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。
 - ④クラッチは、オン⇄オフを繰り返しながらよく水を掛け流してください。ハンドルやハンドルノブも回しながら水を掛け流してください。
- ※温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。

- 適材適所で使い分けしているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対におやめください。
- 本体のウォームシャフトやレベルウィンド、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。
- ②洗浄後は、よく水を切って乾燥させてください。
 - よく水を切るために、ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的です。
 - ドラッグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。
- ※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- 内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。
- ※溶剤(シンナーなど)では手入れしないでください。
- ③以下の注油規定に則り、必ず注油してください。
 - ④保管の際は、ドラッグを緩めてください。

■注油規定 ⚠️注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

【スプールボールベアリングへの注油(オイル)】

- 1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。
 - 2 メカニカルブレーキノブを外し、内側に見えるボールベアリングに注油します。
- ※つけ過ぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なうおそれがあります。
- 例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合も軽く一吹き程度で結構です。



【スプールシャフトへの注油(オイル)】

- 1 取り外したスプールのシャフトに(→の箇所)に注油します。
- ※グリス、オイル切れの状態が長時間使うと、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼きつきをおこす事があります。少量を毎回注油されることをお勧めします。

【ウォームシャフトへの注油(グリス)】

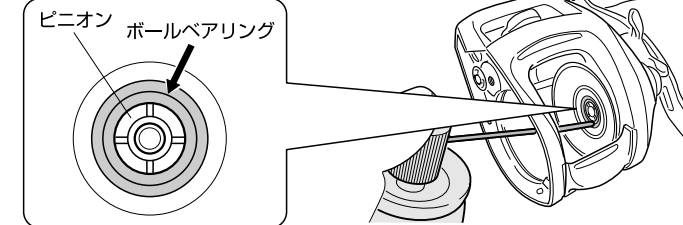
- 1 図のようにウォームシャフト部へ注油します。
- ※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

【ハンドルノブ、クラッチへの注油(グリス)】

- 1 図のようにハンドルノブへ注油します。
- ※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。
- 2 図の様にクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。
- ※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。
- ※落下などのショックを与える事で異音の発生や、スプールフリー性能が変わることがあります。お取扱いは充分にご確認ください。
- ※リールを長期間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かすことをお勧めします。

【ピニオンギアボールベアリングへの注油(オイル)】

- 1 スプールの取り外し、リール本体側のピニオンボールベアリングに注油します。この際クラッチをOFFにしていたとどうまく行えます。(スプレーオイルの場合軽く一吹き程度で結構です。)



【スプールシャフトへの注油(グリス)】

- 1 取り外したスプールのシャフト両端(→の箇所)に、グリスを付けます。イラストの様に、一度、ピニオンなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。
- ※グリス切れの状態が長時間使うと、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼きつきをおこす事があります。少量を毎回注油される事をお勧めします。

